

那 須 岳

○概況（平成 18 年 7 月）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○地震及び微動の発生状況

火山性地震の発生回数は 1 日あたり 0～2 回と少なく、静穏に経過しました（図 1）。火山性微動は観測されませんでした。

○噴煙の状況

茶臼岳の噴煙は少ない状態が続いており、噴煙高度は火口縁上おおむね 100m で経過しました。噴煙高度及び噴気温度は 1990 年以降、低いレベルで推移しています（図 1、図 2）。

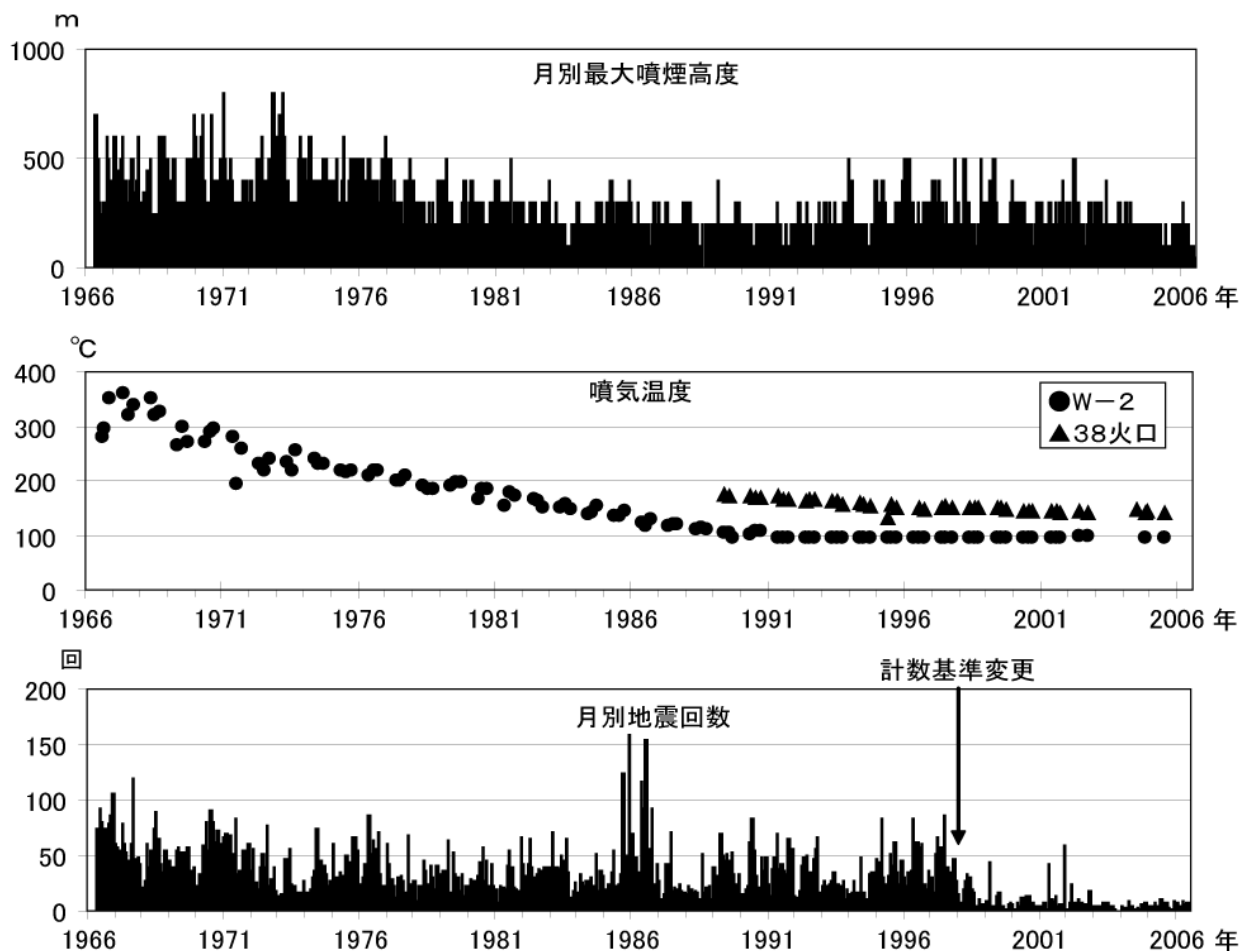


図 1※ 那須岳 最近の火山活動の推移（1966 年 1 月～2006 年 7 月）

上段：茶臼岳の月別最大噴煙高度：定時観測（09 時・15 時）の最大値

中段：噴気温度（W-2 及び 38 火口はいずれも茶臼岳西側斜面にある温度観測点）

下段：月別地震回数（計数基準変更のため、1998 年前後で回数レベルに差がみられる）

計数基準：1997 年までは A 点振幅 0.05 μm 以上で S-P 時間 5 秒以内

1998 年以降は A 点振幅 0.1 mkine 以上で S-P 時間 1 秒以内

※この資料は気象庁のほか、東北大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図2 那須岳 茶臼岳付近の状況（7月13日、那須湯本遠望カメラによる）

○地殻変動の状況

G P S連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした（図3）。

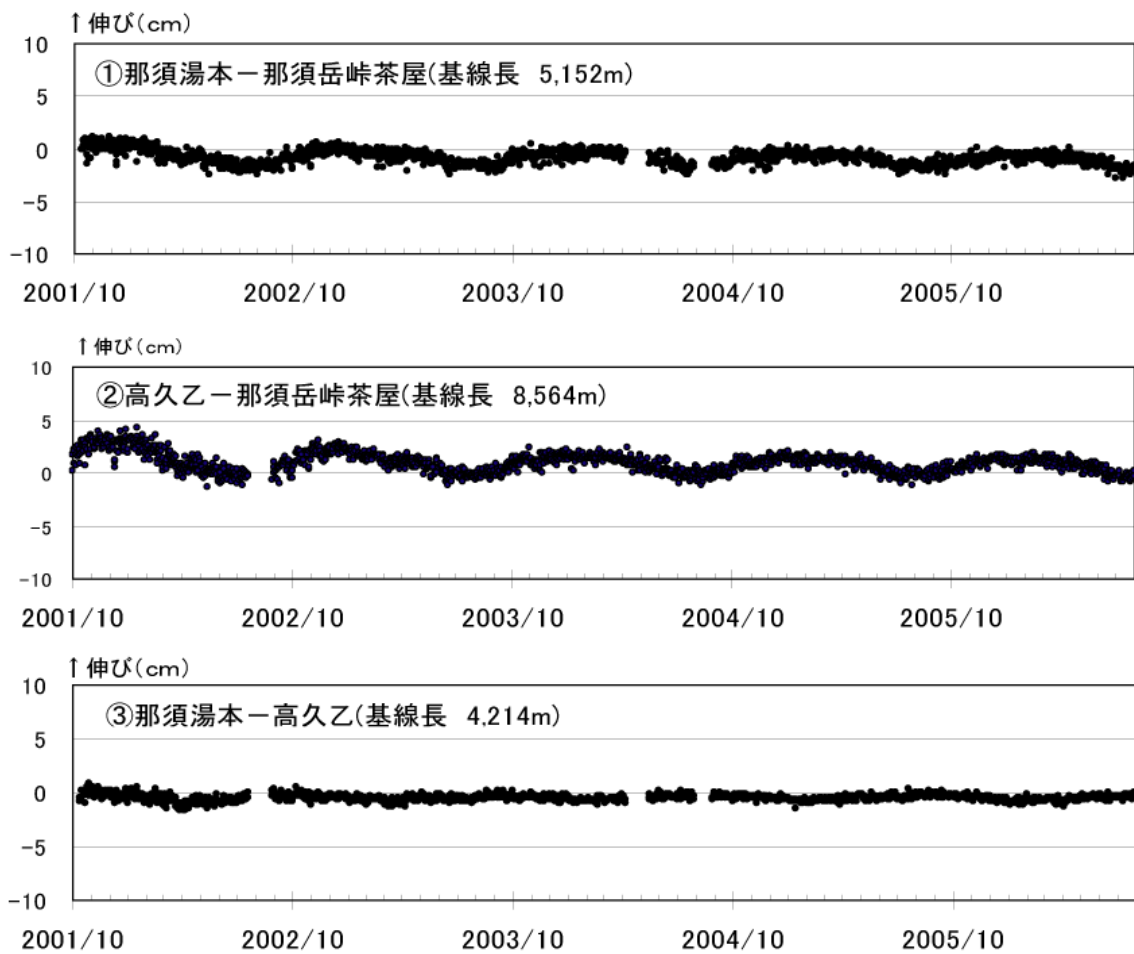


図3 那須岳 G P S連続観測による基線長変化（2001年10月1日～2006年7月31日）
基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

○観測点情報

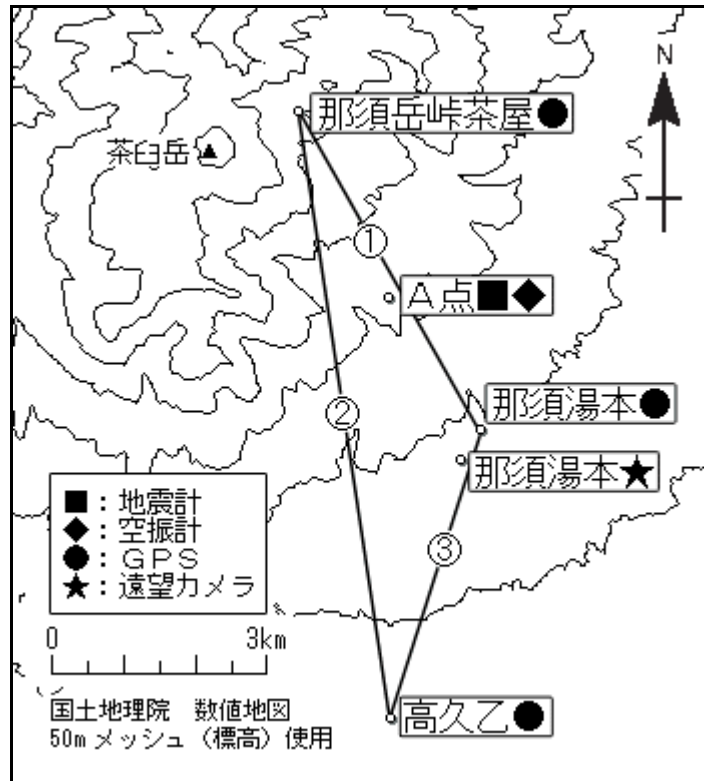


図4 那須岳 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）